



—平成24年度 成人式—

自分たちの金メダルをめざせ！！

松川町公民館報 第587号

成人式実行委員長 前沢武蔵さんの主張は8ページにあります

館報
まつかわ

松川の自然を探す旅 ～大島編～



～今回の案内人～



自然をこよなく愛し
「松川町史 第2巻」
～松川町の自然第2章 植物～
の執筆もされている。

木下 進さん

私たちの住む松川町には、豊かな自然があります。しかし、その中には普段の生活ではなかなか気付かずに見落としている貴重なものも多くあるように思います。
そこで公民館編集部では、私たちのまだまだ知らない松川町の自然を探しだす旅にでかけました。この特集のきっかけにもなった文化協会発行の情報紙「まつかわ文化」の中で、町の自然について執筆されている伊那谷自然友の会の木下進さん(宗源原)に案内していただきながら、今回は、大島地区を訪ねてきました。

氷河時代の置き土産 巨石

子どもの頃、夏の松川へ行く目的は、水浴びでした。ニセアカシアの木のトゲと虻(アブ)をかわし飛び込む水の気持ち良さ！その後、冷えた体を温めるのは大きな石。腹ばいになつてみると、そのまま眠ってしまいそうになつたものです。



氷河時代の巨石 清流苑のすぐ近くにある

その大きな石。清流苑のすぐ近くにあります。当たり前にあるものとしていましたが、現地を訪ねてみて色々わかつたことがあります。あの松川の巨石は、およそ1万8千年前の間氷期。日本海側の対馬暖流(海水温15℃前後)とシベリア方面からの冷たい季節風により、降雨・降雪が多くなりました。そのため、頻繁に起こつた洪水で、巨石を道連れにした土石流が、木曾山脈から一気に上大島・上片桐地区へ押し出されたことによる置き土産なのだそう。はるか大昔の気象とか専門的なことはさておき、そのスケールの大きさ、巨大なエネルギーによる破壊



馬坂にある弁天の巨石

力に圧倒されます。今回の案内で馬坂の弁天の巨石も訪れました。なんと、今までも何度となく通つていた道端にそれはありました。先生によれば、弁天の巨石は生田と大島の境界にあつたのではないかと。天竜川の流れももう少し西寄りを流れていたのではないか、とのこと。
「あばれ天竜」といわれ、何度となく水害を起こしているこの川も、緩やかにゆつたりと流れたときがあつたのでしようか。

縄文人が栽培!? フモトミズナラ

役場前の道を真っ直ぐ上大島へ向かうと、正面に見える山、それが城山です。そこにある老人福祉センター裏の雑木林にお目当てのフモトミズナラの木が・・・。
「足元のクサリにつまずかないように気をつけてな」
木下先生の心遣いで雑木林に足を踏み入れてみると、濃淡の緑の大洪水の中に、金色の木漏れ日がひとすじ、ふたすじ。「うわつ、すごい!!」など思わず声をあげてしまう美しい景色が広がります。



まだまだ知らない



フモトミズナラを見上げて

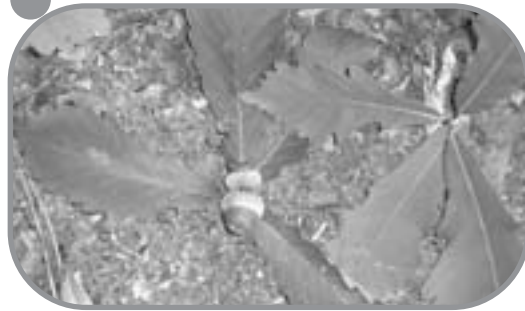
木下先生は、足元に落ちて
いるフモトミズナラの葉とド
ングリの実を拾い上げ、説明
をしてくださいました。ミズ
ナラは本来、標高1,000m
以上の高地に自生しているも
ので、小八郎岳や柄山奥の伊
那山脈で確認されるようです。
そのミズナラと同様の葉をも
つフモトミズナラが標高600m
ほどの城山に自生しているの
はなんとも不思議なことだそ
うです。

フモトミズナラは、クリと
同じ9月上旬頃コロンと丸い
大き目の実をつけ落ちます。

この時期は、コナラ・クヌ
ギの実はまだ手に入らずクリ
代わりに食するにはもってこ
いであつたとか…。松川の縄

ミソベタ。その初めて聞く
言葉を理解すべく、松川下流
に向かいました。天竜川との
合流点近くの小松川橋の河原
には、ミソベタと言うものを
知らない私たちのために、他
の石と比べられるようミソベ

塩嶺火山泥流の ミソベタ層



フモトミズナラの葉と実

文人が小八郎近くまで採りに
いくのは遠いと考えられるた
め、この地でフモトミズナラ
を栽培したのでは、と思われ
ているそうです。

木下先生のお話ではるか縄
文時代までタイムトリップし
たかのようなロマンあふれる
フモトミズナラとの出会いで
した。



ミソ生のような泥流のかたまり ミソベタ

夕の塊が用意されていました。
約200万年前からの南アルプ
スの隆起により伊那谷は形成
されたそうです。この頃堆積
したのが、天竜川の砂礫を主
とする伊那層群です。約100万
年前に諏訪方面で火山活動が
活発になり、大規模な火山泥
流が伊那谷に流れ込んだこと
があり、その堆積物がミソベ
タ層だそうです。その姿を長
い年月を経て、今回ミソのよ
うな土の層を目にすることが
できました。

また河原以外にも、天竜川
から少し離れた馬坂の土手の
側面からもミソベタ層を見る
ことができました。そして現
在の天竜川と違う場所にミソ
ベタ層があるということは天

今回、普段の生活では、見
てはいても気付かない発見が
多くありました。川遊びをし
ながら石に触れていても、石
と泥が固まったものと思っ
ていたものが、遠く諏訪から
の火山泥流とは思ってもよ
りませんでした。

次回以降、上片桐、生田方
面の自然も探しに行く予定で
すが今から待ちどうしくてな
りません。



馬坂にあるミソベタ層

竜川の流れが今みるよりも西
寄りを流れていたのではない
かと想像をふくらませ、長い
歴史の中で様々な変化を経て
現在の姿になっているかと思
うと、大自然のスケールの大
きさに圧倒されました。

第1回「地域を知る講座」 親子で学ぶ台城の秘密～松川町のミリヨク再発見～

第1回「地域を知る講座」が8月4日(土)に開かれました。「地域を知る講座」は町の歴史、文化、産業等の素晴らしさを共有し、松川町に住んでいてよかったなあと思う方々がもっと多くなることを願い、立ち上げられた講座です。第1回は「親子で学ぶ台城の秘密」で、松川町資料館の酒井幸則さんを講師に迎え、14名が参加しました。武田信玄は全国統一に向けて、台城を重要な拠点として大改修を行い、様々な工夫を施しました。その工夫と当時の様子を酒井さんの案内で見学しました。

台城の本丸跡の2箇所、400年前の焼けたお米をみつけることができます。これは台城が落城する際に燃えたお米が残ったものです。焼米をみつ

400年前のお米!?

当時の台城の出入口は現在とは違い、駐車場横の民家につながる道を行くとありました。この出入口には丸馬出や三日月堀など城兵の出入りの安全確保、敵からの攻撃を防御するための工夫が施されています。これらは武田氏流の築城方法で、これほど巨大で二重の堀は長野県内でも珍しいそうです。他にも城の側面からの敵の侵入を防ぐために土を盛り上げて山のようにした土塁が今も残っています。

今も残る丸馬出と三日月堀



「台城が重要なお城だったことを初めて知った。」と夏休みのいい体験になったようです。子どもさん達だけでなく大人の方も慣れ親しんだ台城を改めて知るいい機会になったようです。



焼米を発見

夏休みの一研究として参加された子どもさんもお、「焼米をみつけるのが楽しかった。」けようと子どもも大人も少しがみ込んで夢中になって探しました。



焼米を夢中で探す



被爆体験を語られる瀬木正孝さん

原子爆弾が投下された広島のこと、いろいろな機会を通してみなさんご存知だと思いますが、瀬木さんのお話をお聞きして風化されてはいけないという思いがますます強くなりました。

「私に残された時間はあまりないでしょう。だからこそ次世代を担う若人をお願いしたい。一人ひとりが思いやりの心を持つて人間の命の大切さを知っていただきたい。」
この言葉は講師の瀬木正孝さんによるもの。広島被爆者援護会理事長の瀬木氏自身は10歳の時に自宅で被爆。それも疎開先の親戚宅から家族に会いたさゆえに勝手に帰郷した翌日のこと。
ご自身の被爆体験から語られる言葉には二つとない真実の重みがあり、よく通る力強い声が私の心に訴えかけるように響きます。

「二家の大黒柱はお母さんだったかもしれないね」
私にはこのお話が心に残りました。
瀬木さんは松川中学校や松川高校で修学旅行の事前学習でお話をされているそう。私の娘が広島を修学旅行で訪れたときの感想は「なんかだんだん悲しくなってきた泣けてきた」でした。
原子爆弾が投下された広島のこと、いろいろな機会を通してみなさんご存知だと思いますが、瀬木さんのお話をお聞きして風化されてはいけないという思いがますます強くなりました。

「まつかわ大学 第2講座」 8月18日
消された街 広島

動を起こしたのは女性。自分の大けがを物ともせず不明の妹を捜す母。原爆投下後の3日間、父を探し市内を歩く瀬木少年に道を聞いてきたのも、やはりほとんど女性だったとか。

新しい公民館への願い

中央公民館づくりワークショップ

「情報収集会議」

中央公民館の改築にともし、町民が利用しやすい公民館を作る為、8月6日に利用者・関係者が集まり、情報収集会議が行われました。

新しい公民館へ求めるもの 今の公民館への不満：

9班に別れて、最初に新しい公民館に求める施設・印象について各班ごとで意見を出しました。防音の備えた部屋、子ども達が集まる空間や、高齢者・障害者の為のエレベーターの設置などたくさん願いが出されました。



次に現在の公民館の不便な点・場所を各班ごと挙げました。昭和46年に建てられた施設なので、現在のクラブ活動に適していない部屋があった

り畳の部屋が多いなどの意見が出され、それを各班で公民館の見取図の中に貼っていました。

新しい公民館のイメージ

最後に会議のまとめとして各班で、新しい公民館のキャッチフレーズを考え発表しました。町民の集いの場・情報の



発信源・拠点となる場・子どもからお年寄りまで気軽に立ち寄れる場など、新しい公民館への理想が挙げられました。

今回の会議が、今後の公民館建築・整備計画検討ワークショップでの基礎となる意見となります。会議で挙げられた利用者のイメージが現実になるように、良い方向に会議が進んでほしいと思います。

生涯教育のメッカ

松川青年の家だより

（その十二）

南信州は竹が豊富

南信州地方で多く見られる竹は、主に次の3種です。家の近くに植えられている太くて肉厚の竹はモウソウチクといい、春先にはおいしい筍として食卓に上がります。背が高くまっすぐ伸びるマダケは、昔、農作業で使うかごやびくなどを作るためには欠かせない材料でした。これは急斜面の土留めも兼ねて段丘崖で育てられています。そのほかに、直径2cm程度の笹に似た細い竹が林の周りで見られますが、昔、子どもたちが紙玉でつぼうやチャンバラで遊んだヤダケという種類です。

青年の家では、この竹を使って竹工作教室を開催しました。

竹馬づくり



今回は、竹馬と紙玉でつぼうとひも付き竹とんぼに挑戦してもらいました。

竹馬は直径3〜5cmの長さ2.5mぐらいのマダケに、2本の角材をはさんでそれをシユロ縄できつく縛って完成です。縛った紐が少しでもゆるむと足をのせた時に台がずり落ちてしまうので、大変だったようです。自分の竹馬が出来上がる子どもたちはさっそく試乗したのですが、最初は上手に乗れなくてお母さんに竹を持ってもらって乗っていました。

紙だまでつぼう

紙だまでつぼうはヤダケを使って筒を作り、モウソウチクを削って押し棒を作ってでき上がりです。最初、うまく作れなかった子どもたちも見本を見たりおじさんから話を聞いたりして何とかでき上がりました。そのあとやった的当てゲームでは、小さなお子さんは紙をきつくつめて強く押すことがむずしくて、親に手伝ってもらって飛ばしていました。ちなみにそのゲームで優勝したのは50歳代のおじさんでした。

竹とんぼ

最後はひも付きの竹とんぼです。これは普通の手の平で



心棒をこすって回す竹とんぼとは違い、心棒に糸を巻きつけてからそれを引っ張ってプロペラを飛ばします。これだと急速に心棒の回転が速いので、羽は10mぐらい飛び上がります。竹とんぼづくりに肉が厚いモウソウチクを使用しました。これはプロペラを斜めにするのに適しているからです。出来上がったので、玄関へ出て飛ばしてみました。最初は糸を引くスピードが遅かったり支えている手がふらついてしまったりして、なかなかプロペラが上に飛ばなかったのですが、慣れてくると「ぶーん」と勢いよく上がるようになりました。このように、竹の工作と遊びを楽しんでいただいた講座でした。



初めての白沢山

恒例のフアミリー登山に参加してきました。今年の山は生田の白沢山です。

恥ずかしながら、生田の出身でありながら、この山の事を知るの初めてでした。

今回も35名と大勢の方が参加していただき、なかには、中学生2名と小学生3名の参加者もありました。

登山道に到着し、いざ登山の開始です。今まで2回のフアミリー登山に参加しましたが、今回が一番山道が険しかったと感じました。

人々の心の拠り所 白諏神社
登山開始から1時間程度で目的地の白諏神社に到着。ここでお昼です。資料館の酒井



りしました。中にはこの飯田下伊那だけでなく、県外の人々の心にも大きな影響を与えている事に感心するとともに、三六災害後もこうして現存する事から、人々に愛された神



さんのお話によるとこの白諏神社は、戦時中に多くの人が出征者の無事を祈りおとすれ、軍神が祀られている神社でそのなごりから、剣が飾られていたり、出征者の名があった



社だと心に思いました。

山頂の澄しい空気を感じながら下山しましたが、下山ルートは登り以上に険しく注意をしながら下りていきます。下山途中にあった、大鹿村と生田村をつなぐ重要な場所だった折草峠には、石碑が今も残っています。三六災害の時はこの峠を越え大鹿村の被害を伝えたと話を聞き、命がけで伝えた人の心意気に感動を覚えました。

松川町を一望 観陽丘

下山後、観陽丘へ移動して松川町の風景を望みました。後ろを見ればさつきまでいた白沢山が見えます。何げなく見ている山や町の風景一つ一つにも人々の思いや歴史が深く関わっており、今回のフアミリー登山でその事に触れる事が出来、すばらしい登山だったと思います。

本館体育部 高坂 政憲

夏の影を

追いかけて

第27回松川町オープン野球大会

8月19日(日)に町内の各グラウンドで第27回松川町オープン野球大会が行われました。結果は次の通りです。

- 優勝 平成トンネルズ
- 準優勝 熱湯甲子園
- 第3位 ショウヤンズ
- 松中野球部

第5回松川町町民ゴルフ大会

8月26日(日)に高森カントリークラブで第5回松川町町民ゴルフ大会が行われ、男性156人女性17人計173人が参加しました。結果は次の通りです。

- 1位 中平清
- 2位 滝川智之
- 3位 寺澤仁

第37回松川町オープンソフトボール大会

7月29日(日)に全22チーム

が参加し予選を行いました。8月26日(日)には各地区で勝ち抜いた4チームによる決勝トーナメントが、運動公園にて行われました。上位入賞チームは次の通りです。

- 優勝 大栢
- 準優勝 城北A
- 第3位 宗源原
- 第4位 清上

長野県副知事 加藤さゆり氏講演会のご案内
「女性が元気な長野県をめざして」

ひと男とひと女
いきいき講座

10月5日(金)

時間：午後6時30分から
場所：町民体育館
お問い合わせ先
中央公民館 TEL36-2622



なまかな今

参加者全員でつくる会 唄と踊りの夕べ実行委員会

40年前の昭和48年のカラオケ大会から始まった集まりが、32年前に踊りの発表会が加わり現在の形になりました。

始まった当時は、町からの補助金をもらい運営していましたが、現在では公民館に窓口をお願いして、会員のみなさんのボランティアで運営されています。

現在会長をされている三浦秀雄さんは三代目、音響関係の仕事をされており、公民館を始め



チョロクんとブータくん

夏らしい陽気の中、8月5日(日)町民体育館トレーニングルームで人形劇『とびだせブツターマン』が行われました。会場には夏休中の子どもたちそしてお父さん、お母さん165名が集まりました。人形劇が始まる前には、ウクレレを使った歌で会場の子ども達との掛け合いをして和



唄と踊りの夕べ実行委員会の皆さん

松川町の施設に音響設備を寄贈されています。唄と踊りの夕べでは、音響設備を無料で提供し設置しています。

実行委員の皆さんは2ヶ月前より会議を開き準備を進めています。昔は参加できないほどの申し込みがあったそうですが、高齢化や演歌離れ、踊り離れもあつて年々参加者が減っています。そんな中、実行委員会の呼びかけにより32年続けて参加される方、初参加の方もいます。また、松川町全体での踊りの発表の場はここにしかない為、この日を目標に練習をしている団体もあります。

やかな雰囲気にしてくれました。

会場が和んだところで人形劇が始まると思いきや、今度は手品を披露してくれました。指を使った手品やハンカチを

すぽっと

子ども大人も魅了

痛快娯楽人形劇

げきだんはてなく

使った手品で会場は盛り上がりしました。

さらに今度は、世界のけん玉が登場して、珍しい形のものから小さいものは、小指ほどのけん玉が登場しました。

豊かな声量と、細やかな人形の動きの表現で臨場感あふれる人形劇となりました。

映像を簡単に観れる時代ですが、生の声、人形の動きで本物を感じることのできる機



「楽しみにしてる方がまだ沢山おられるので続けていきたい。」と語られました。会となり、夏休みの子ども達の良い思い出のひとつとなりました。



今年も35の発表プログラムが生まれ開催された

俳句

北原愛子(弥久司)

じりじりと照る陽を受けて大根時く

深見湖の花火は水面にも開き

夕霧や木の間に見ゆる一茶堂

昼神に祝ひの宴や鱗雲

日蓮の身延の山は紅葉して

短歌

黒揚羽

下平 曜子(宮坂)

大震災の追悼合図に黙祷す

終戦の日の母を重ねて

隣村の揚げる煙火は実況音

テレビに諏訪湖の花火を見つつ

昨日今日庭に来て舞う黒揚羽

われの無聊に付き合うような

盆明けを道路工事の掘削音

紛れず鳴くは耳のなかなか

時かぬのにプランターの中抜きん出て

残暑に燃ゆる葉鶏頭の紅



まちの石仏 ⑩ 「蚕玉さま(3)」(峠)

下峠庚申堂にある丸彫りの蚕玉様(女神)。右手に桑の葉、左手に福德の象徴である宝珠を持っている。



ていく。人間が生まれるまでの確率でさえ、ものすごいというのに、さらに6億人以上の中から接して生きていくのはわずかだと思えます。今まで生きてきて、出会ってきた恩師の方々、知人、部活動やバイト先で出会った仲間、そして最高の友たちも、ものすごいことだと思っ



久しぶりに会った仲間と話がはずむ

主張 「かむがむのなる世はる」

長いようで短かったこの20年という月日の間に、私たちはどれだけでも多くの人々と接し、お世話になり助けられ生きてきたことでしょうか。自分という存在を作り上げてくれた父・母、そして家族のみんな。時にやさしく、時に厳しく接してくれた恩師の方々。喜怒哀楽を自由に出し合えた友人たち。この20年間に触れ合ってきた人々は個々によって様々ですが、一瞬でも自分と接し、共に生きた人々に感謝をした、と思います。

今年は、ロンドンオリンピックということで世界中の人々が一つの場所に集まりスポーツを通じて競い合いました。選手同士、監督、コーチ、応援団を含めたサポーターとの一体感に人間関係の素晴らしさを感じました。私は最近、人と人との出会確率にとっても大きな影響を受けました。自分自身がこの大きな宇宙という空間の、地球という名の星の、日本という国に生まれる確率から始まり、人と接しあい、そして育つ



松川町の成人式は毎年8月15日(終戦記念日)に行い、式のはじめに黙祷をする。

のです。そしてこの先も、生きていく中で素晴らしい確率で、様々な人々と出会っていくと思います。今後、人と出会った素晴らしさを大切に、感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいと思えます。松川は最高です。松川バンザイバンザイ松川。最後になりましたが、成人式を開催していただいたことに感謝申し上げます。また、今後とも指導ご鞭撻をお願いします。実行委員長 前沢武蔵

2022年

今年も9月1日の「防災の日」を迎え、町の防災訓練、各自治会この自治会防災訓練、小学校、保育園の防災訓練、テレビ、ラジオなどでの震災関連番組などの放送など普段の生活の中では忘れがちな防災について考えさせられる季節になりました。

今年消防団として小学校の避難訓練に呼ばれた際に、「地震について家族で話しているか」という質問にほとんどの家庭で話したことがないと答えていました。東日本大震災の発生後様々なメディアで報道がされていたので、もっと話題になっているかと思っていたので驚きました。大きな災害が起きると連絡手段がなくなり、家族との連絡も簡単には取れなくなると思われます。家族とのスムーズな合流のためにも、災害が起きた時にそれぞれがどこに避難するか、第3候補くらいまで決めておく、迷わず行動できて、結果的に安全につながると思います。

また、避難する際に必要なものをまとめた避難袋を用意する、転倒しそうな家具を固定する、などの対策を行う。いつ災害が起こっても落ち着いて行動できるように話をすれば、家庭の会話も増えて家族仲もよくなるかも？

「天災は忘れた頃にやってくる」との言葉が示すように突然やってくるのが災害です。いつも心の片隅に置いておくのが一番の対策でしょうか。

大久保 康司

公民館報
「まっかわ」
第 587 号
平成24年9月15日

発行所 松川町公民館
責任者 矢澤 登
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)